



令和5年度 長崎市立三重中学校

令和 6 年 3 月 15 日

学校だより

わくわくする学校

文責

合言葉「考えて行動する」

長崎市立三重中学校

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/mie-j/>

校長 田添 俊和

令和5年度 第51回長崎市立三重中学校卒業証書授与式

3月14日（木）「令和5年度 第51回長崎市立三重中学校卒業証書授与式」を挙行了しました。今年度は、体育館の広さの関係で若干の人数制限（在校生は2年生のみ参加。1年生は教室でリモート視聴）はありましたが、ほぼコロナ禍前の規模で実施しました。来賓、保護者、在校生、教職員が一堂に会し、卒業生を送り出すことができたことは、とても良かったと感じています。

卒業式では、「この3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な制限や困難を乗り越えなければならない日々でした。思うように部活動や行事を行うことができない時期もありましたが、卒業生は前向きに努力を続け、創意工夫を凝らしながら学校生活を充実させてきました。その経験こそが、心を強くし、これからの人生をたくましく歩むための力となります。何事も恐（おそれ）ず、怯（ひる）まず、慌（あわ）てず、「今」を大切に、今できることを着実に積み重ねてほしい」という内容を卒業生に伝えました。

また、「自ら学び続ける姿勢をもつこと」「挑戦する勇気をもつこと」「ふるさとを誇りに思い大切にすること」を大事に、新しい人生を歩んでほしいと話しました。

3年前、卒業生と同じように、ここ三重中学校の門を初めてくぐった者として、この晴れ舞台で卒業生を見送ることができたことをとても光栄に思います。

未来への希望を胸に抱いて大きく羽ばたくとともに、希望に満ちた卒業生のみなさんの輝く未来に幸多かれと祈っています。



「節目」の大切さ

「竹」はご存じの通り、茎も葉も根も非常に硬い植物です。中でも、茎にあたる幹の部分は、相当強い強風でも折れることが少ないと言われ、かなり頑丈にできています。それは、「竹」の胴体である幹に秘密があります。頑丈な胴体には「節」という部分があり、この「節」のおかげ折れることなく、悠々と伸びています。

このように頑丈な「竹」ですが、意外に柔らかい性質をもっています。硬い「竹」が折れずかなりのところまで曲がるのは、「節」があるおかげです。これらの性質を踏まえて「竹」は「しなやか」という言葉でよく例えられます。

この一年、学習や学校行事、部活動などで忙しく、あっという間に月日が流れた感じもしますが、どの学年も成長が見られます。それは、節目節目に目標を掲げ、生活を送ったからです。1日や1週間の小さな節目でも、行事ごとの大きな節目でも、目標に向かって歩んできた今だからこそ、安心して1年を締めくくることができます。

あと1週間で修了式。そして春休みを迎えます。生徒にとっても、先生方にとっても大きな「節目」であると考えています。この1年間の成果と自分の成長を振り返るとともに、進級への元気と勇気を蓄える大切な時間にしたいと思います。